

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.11
平成24年7月9日

あいさつは、心を届けるもの！

「校長先生、さようなら！」

2階の渡りから下校の様子を見ていたわたしに、何人かの児童が、笑顔で手を振りながらさよならのあいさつをしてくれました。それまでの疲れが一瞬にして吹き飛んでしまうような爽やかな心地よさを覚えました。

「あいさつは、心を届けるもの」と、言いますが、桜っ子の心のこもった声が、わたしの心を揺さぶり、とてもよい気持ちにしてくれたのです。

全校朝礼の話より（7月2日）

「あいさつのきれいな王様」

「王さま、おはようございます」「王さま、こんにちは」「王さま、こんばんは」「王さま、おやすみなさい」王さまは、朝起きてから夜ねるまで、あいさつ、あいさつのされどうしです。

「ええい、うるさい。いつもと同じあいさつなんかなくてもいいのだ！」

とうとう、王さまはおふれを出しました。さあ、国中が大騒ぎです。

パン屋さんは、お客さんに「おはようございます」とうっかり言って、つかまってしまいました。屋、おとなりのおばさんに「こんにちは」と言った子どもも、ろうやに入れられてしまいました。

あいさつができなくなったこの国は、いつのまにか暗くてさびしい国になってしまいました。あいさつを禁止した王さまも、どうしたわけか、日に日に元気がなくなり、暗い気持ちになっていきました。

そんなある日、どこからか大勢の歌声が聞こえてきました。王さまは歌声の方に歩きだして行きました。なんと、それはお城の中にあるろうやの方から聞こえてくるのではありませんか。それはとても楽しそうな歌声です。よく聞いていると、「あいさつは楽しい」と歌っています。王さまは聞いているうちに一緒に歌いたくなりました。

「ううん。いかん、いかん。わしはあいさつがきれいじゃった。あいさつの歌を歌うなんてとんでもない」王さまは急いでろうやのそばからにげだしました。「ううむ、おかしい。何かおかしい」王さまは、考え込んでしまいました。

何日かたった朝、王さまは、ばったり出会った家来についてうっかり、「やあ、おはよう」と言ってしまいました。家来は、あいさつのきれいな王さまがあいさつしたことにびっくりしました。王さまは、あいさつをしたおかげで、今までの暗くて元気のなかった気持ちが、いっぺんにふっとんだことに驚きました。

「そうか、あいさつするというのは、こんなに気持ちのいいことだったのか」

王さまは、自分がまちがっていたことをあやまり、おふれもやめました。それどころか、それから王さまは自分からすすんであいさつをするようになったのです。

おかげでこの国は、あいさつがとびかって、ずっとずっとわらいごえのあふれる楽しい国になりました。

どうですか？ 桜小からあいさつが無くなったなら、弥富市からあいさつが無くなったなら、日本中からあいさつが無くなったなら、世界中からあいさつが無くなったなら・・・？ きっと暗い気持ちになりますね。

あいさつはただ声を出せば良いのではなく、心を相手に届けるのです。桜小のみなさんの心を声に乗せて、素敵なあいさつをしましょう。

